

内容 事実に、概念、 手続き、メタ認知	(〇〇する 力がある)	想起する	理解する	応用する	分析する	評価する	創造する
		(再認、再生)	解釈、例示、分類、 推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織 結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画 できる、汎化
1 在留外国人の定義		自分の出会った 外国人を思い出 す。	外国人の境遇を理解 する。		どのように定義 するか考える。	日本での在留外国人 の役割を評価する。	
2 言語サービスの主体		在留外国人へ提 供されている言 語サービスを想 起する。	言語サービスが誰に よって提供されて いるか理解する。		言語サービスの 定義を試みる。		自分が言語サービ スを提供できる。
3 言語サービスの対象者		どのような外国 人に対して言語 サービスを提供 するか想起す る。		各自の素質を伸ば す日本語教育を考 える。	サービスの対象 者の特質を理解 する。		
4 公務員が提供するサービス			公務員が全体への奉 仕者であることを理 解する。		言語サービスを 提供する主体が 公務員であるこ とを分析する。	自分の知る地方自治 体の言語サービスを 評価する。	

5 やさしい日本語	外国人の話す日本語を想起する。			やさしい日本語教育の歴史を分析する。	正統的な日本語とやさしい日本語を評価する。	外国人にやさしい日本語で話す「。
6 日本語の国際化について		日本語の国際化について説明できる。		日本語教育と国語教育を比較する。	日本語の国際化が上手く進展しているかどうか評価する。	
7 日本語が話せない子どもたちの増大	日本語が不得意な外国人と会話した経験を思い出す。	子どもたちの置かれた環境を理解する。				ボランティアで外国人への日本語教育に従事する。
8 ダブルリミテッド		バイリンガルの方の言語政策を理解する。	ダブルリミテッドにならない方法を実行する。	CALP, BICS の違いを分析する。		
9 文化の違い	異文化の人と出会った時を思い出す。	異文化の方の考えを理解する。		異文化理解教育を分析する。		異文化理解教育の模擬授業を実践する。
10 社会とルール	外国人と会った感じた違和感を思い出す。	在留外国人のかかえる文化的トラブルを理解する。	在留外国人にどのように社会のルールを教えるか考える。		現在の在留外国人へのルールの伝え方が適切か考える。	
11 人権宣言		人権宣言の必要性を理解する。	人権宣言の精神をどのように応用するか考える。	べきか説明できる。	人権宣言とはどのように役だったか評価する。	

1 2 国籍の取得		外国人が国籍を得る手順を理解する。		日本と他国の国籍の取得方法を比較分析する。	現在の日本の国籍取得の方法を評価する。	
1 3 法廷通訳他	。	法廷通訳がなぜ必要か理解する。	自分が法廷通訳人になったときに、何をするか考える。		他国と日本の法廷通訳人制度を比較評価する。	
1 4 国際観光都市と多言語	観光地で見た外国人の行動を思い出す。	Over tourism の問題について理解できる。	観光地での言語サービスを実行する。			適切な補助教材を作成する。
1 5 望ましい多文化共生社会	多文化共生社会に住む自分をイメージする。	移民が増えると生じる言語問題を理解する。		世界に多発する民族問題と言語の事例を収集する。	各国の移民対策を比較する。	関連する情報をテレビ・新聞などで収集する。